



防災マップの使い方

土砂災害や洪水から素早く安全な場所に避難し、被害を最小限に抑えるため、避難所や避難時の心得、災害の備えなどを、日頃から家族や地域の皆さんと話し合い、確認しておきましょう。また、家族や地域独自の情報なども追加しておきましょう。

手順
1

自宅の危険度を確認しましょう。

地図上で自宅の位置を確認し、自宅とその周辺の「土砂災害警戒区域」や「浸水想定区域」などの情報をあらかじめ確認しておきましょう。



洪水・土砂災害ハザードマップ p10～31
ため池ハザードマップ p44～55

手順
2

避難所を確認しましょう。

自宅の最寄の避難所を探し、どの災害時に避難できる避難所かを確認しましょう。確認した避難所を表紙の防災メモに書き込んでおきましょう。

災害の状況によっては、予定の避難所まで行けないこともあるため、避難先は市が開設する避難所だけでなく、日頃から安全な場所にある親戚・知人宅に避難することなども考えましょう。

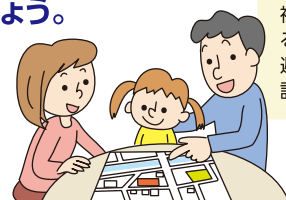


緊急避難場所・避難所一覧 p7
防災メモ 表紙

手順
3

避難する道順について確認しましょう。

家族で話し合ったり、実際に歩いて避難経路を確認し防災マップに書き込んでおきましょう。

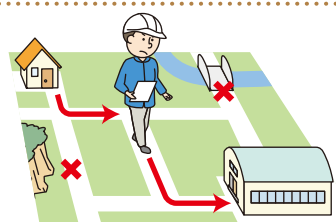


被害想定されている場所をなるべく避けた避難経路を設定する。

手順
4

実際に避難経路を歩いてみましょう。

設定した避難経路を実際に歩き、危険な場所などがあれば経路を見直しましょう。



手順
5

災害情報面で日頃から災害に備えましょう。



p5～7、p34～43

- 避難情報伝達の流れ
- 地震ハザードマップ
- 日頃の備え(地震編)
- 家の災害対策
- 自主防災会の活動
- 情報の収集方法
- 地震発生時の行動
- 土砂災害警戒区域の基礎知識
- 非常持出品・備蓄品
- 避難行動要支援者への支援
- 緊急避難場所・避難所一覧
- 地震時の行動(外出時)
- 風水害時避難の心得



なお、最新のハザードマップは市のホームページでご確認ください。



避難情報伝達の流れ

避難情報の伝達経路



避難情報と警戒レベル

災害に関して、生駒市が出す避難情報と、国や奈良県が出す防災気象情報が、5段階※1に整理されました。

警戒レベル

行動を促す情報

状況

住民の避難行動等

5

緊急安全確保

(生駒市が発令)※2

災害発生
又は切迫

既に災害が発生している状況です。
命を守るための最善の行動をとりましょう。

~~~~~

<警戒レベル4までに必ず避難!>

~~~~~

4

避難指示

(生駒市が発令)

災害の
おそれ高い

危険な場所から全員避難しましょう。
上階への避難や高層階に留まることで安全確保
できる場合は、必ずしも避難所に行く必要は
ありません。屋内で安全を確認しましょう。

3

高齢者等避難

(生駒市が発令)

災害の
おそれあり

ご高齢の方等は、危険な場所から避難をしましょう※3
ご高齢の方以外も避難に時間を要する方や
支援者も避難を開始しましょう。
その他の人は、避難の準備を整えましょう。

2

大雨・洪水・高潮注意報

(気象庁が発表)

気象状況悪化

避難に備え、ハザードマップ等により、
自らの避難行動を確認しましょう。

1

早期注意情報

(気象庁が発表)

今後気象状況
悪化のおそれ

災害への心構えを高めましょう。

〈防災気象情報〉

【警戒レベル相当情報(例)】

警戒レベル5相当情報

氾濫発生情報
大雨特別警報

等

警戒レベル4相当情報

氾濫危険情報
土砂災害警戒情報

等

警戒レベル3相当情報

氾濫警戒情報
大雨警報

等

これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。

国土交通省、気象庁、奈良県が発表

※1 防災気象情報が発表されても、警戒レベル・避難指示等の避難情報が発令されるとは限りません。

警戒レベル・避難指示等の避難情報は、気象状況や市内の被害状況等を総合的に判断して市が発令します。

※2 市町村が災害発生を確実に把握できるものではない等の状況が想定されるため、警戒レベルは必ず発令されるものではありません。

※3 警戒レベル3は、高齢者以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

国土交通省、気象庁、奈良県が発表